

I-2:研究広報

開催日時・会場 9月15日(水曜日) 10:40-12:10 WEB-ONLY

研究広報を広義的に考える

近年、強みとなる研究を大学の「顔」として全学的に推進し、さらに広報も積極的に行う大学が増えています。日々研究者と接する我々URAにとって、研究の情報を発信することは大切な活動であると感じるものの、いざ自分が積極的に広報活動を支援する・情報発信をしていくとなると、戸惑いを感じる方々も多いのではないのでしょうか。

本セッションでは、広報＝お金をかけて広告を出稿するというのではなく、広報＝PR (Public Relation)、つまり社会との関係構築と捉え、どのような方法で学外にメッセージを発信していったかをお話していただきます。講師は、教員・事務職員・URAといった多様なお立場の方にお集まりいただきました。様々な視点からお話を聞くことで「研究広報」の定義を広くとらえ、広報活動の在り方を柔軟に考えます。

セッションでは、講師らの努力により世に発信されていった多種多様な4つの事例を紹介します。「自分はどの事例の広報活動ならばできるだろうか?」という視点でご参加ください。

北海道大学（研究者×市民との対話）：

研究者自身が社会と深く関わり対話しながら行なう研究活動が、研究アウトリーチ的な役割も果たしている事例を紹介。

京都大学（URA×人社系研究発信）：

Academic Grooveの企画・発行を中心に、人社系の研究発信の取組を紹介。

京都産業大学（事務職員×大学広報）：

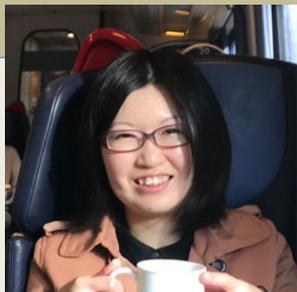
NATIONAL GEOGRAPHICとコラボした高校生向けWEBサイト「Re:世の中」の事例を紹介。

関西大学（URA×理系研究広報）：

私立大学研究ブランディング事業（理系の研究）の広報活動を紹介。

オーガナイザー

伊木貴子: 関西大学・大学本部URA・リサーチ・
コーディネーター／サイエンス・コミュニケーター



早稲田大学大学院環境・エネルギー研究科修士課程修了。CoSTEP 15期生。大学院では環境政策科学を専攻し、世界遺産制度に関心を持つ。一般企業勤務を経て、京都産業大学で理系学生の教育プログラム運営に携わったのち、現職。関西大学では研究ブランディング事業「人に届く」関大メディカルポリマーによる未来医療の創出」の専属URAとして研究広報に従事。

講演者

池田 貴子:北海道大学・科学技術コミュニケーション 教育研究部門(CoSTEP)・特任講師



1980年、神奈川県うまれ。キツネの研究者。帯広畜産大学で修士課程までを過ごし、北海道大学大学院獣医学研究科で博士課程修了。専門は野生動物の生態学と人獣共通感染症疫学。2015年10月より現職。学生時代よりフリーランスのグラフィックデザイナーとして活動し、現在は都市ギツネが巻き起こす社会問題研究の一環として、サイエンスビジュアライゼーションを実践・教育中。動物の飼い主歴＝年齢。いつか流鏑馬をやるために馬術と弓道を習得済。落語と和歌が心の友。

稲石 奈津子:京都大学・学術研究支援室(KURA)・ シニア・リサーチ・アドミニストレーター



助成財団のプログラム・オフィサーを経て、2003年より早稲田大学にてCOEプログラムの研究支援業務に従事。2013年より京都大学のリサーチ・アドミニストレーターとして文系部局を担当。研究者に近い位置で研究支援に努めながら、人社系の研究環境の改善や研究成果発信に取り組んでいる。現在、京都大学の指定国立大学法人関連事業「人社未来発信ユニット」にも携わり、これからの人社系研究の社会へのあり方について思考中。

増村 尚人:京都産業大学・広報部・課長



1974年、京都府うまれ。2006年に民間企業から京都産業大学に奉職。学生部で学生支援に従事した後、2012年10月から広報部。本学の卒業生になるため、業務の傍ら大学院マネジメント研究科に進学し、2016年3月に修了。奉職以来大学スポーツの魅力にハマリ、週末はカメラを片手に「ラグビー」「野球」「駅伝」「バスケット」などの応援（取材？）に熱中。ラグビー部の菅平合宿や硬式野球部の室戸キャンプなど、プライベートで全国を飛びまわる『365日京都産業大学人』。